

2021（令和3）年度
法務研究科 法務専攻（法科大学院）D 日程 入学試験問題
「小論文」
（60分）

注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。

【問題】 次の文章を読んで後の設問に答えなさい。（配点100点）

旧約聖書の「創世記」によれば、神は世界を6日で作ったとされている。欧米には、そんな話を信じ、進化論を間違いと断じている人がたくさんいるというのだから驚きだ。ギャラップ社の世論調査によれば、「神は人類を、現在と非常によく似た姿で、ここ1万年ばかりの間に一点に創造した」と信じている人が、アメリカ人の44%に及ぶという(1)。

アメリカでは、聖書の教えに反するという事で、学校で進化論を教えるのが州の法律で禁じられていたことがある。1925年にジョン・T・スコープという教師が学校で進化論を教えた罪で裁判にかけられ、有罪になった。1968年に、最高裁判所が、進化論を禁ずることは憲法違反であるという判決を下した後、「創造論」（神が世界や人間を短い時間で創造したという説）を信奉する人たちは、自分たちの考えを「創造科学」と称し、これは宗教でなく科学だから、進化論と共に、学校で教えるべきだと主張した。創造科学は宗教であるとの判決が出ると、彼らは「神」という言葉を「知性（インテリジェント）を持った存在」という言葉に代えた「インテリジェント・デザイン論」を唱えるようになった。これは「神」と関係ない、つまり、宗教ではないので、学校で教えるべきだというのである。

「創造論」をめぐる争いは、科学と反科学（疑似科学、ニセ科学）との争いであると考えられている。哲学者のパウル・ファイヤアーベントは、この問題について、興味深い主張をしている。科学を支持する立場からは、非科学的方法に対しては、再現性（所定の条件や手順の下で、同じ事象が繰り返し起こったり、観察されたりすること）がないとか、整合性がないといった非難が投げかけられる。しかし、科学的方法の基礎となっている「帰納法」（個々の具体的事実から一般的な命題ないし法則を導き出す手法）も、これが正しいという確かな根拠はない。帰納法を用いることにより新たな知見が得られるというのは科学における暗黙の了解に過ぎないのである。ファイヤアーベントは、あらゆる知識について、優劣を論ずるような合理的基準はなく、科学と神話の間に優劣は付けられない、無理に優劣を付けようとすれば、「権威主義」に陥らざるを得ないと主張している。そうすると、何を信じるのかは、個人の自由に委ねざるを得ない。彼は、このような観点から、「創造論」が「進化論」と共に、アメリカの公立学校の授業で教育される権利を擁護したのである(2)。

(1)山本弘『ニセ科学を10倍楽しむ本』（ちくま文庫、2015年）394頁。

(2)高橋昌一郎『理性の限界—不可能性・不確定性・不完全性』（講談社現代新書、2012年）176-181頁。

設問1 ファイヤアーベントの見解は「科学を否定している」といえるか、そう考えた理由を簡潔に述べなさい。

設問2 あなたはファイヤアーベントの見解に賛成ですか、反対ですか。そのように思った根拠をあげて、論じなさい。